

逆ザヤの状況について

厚生労働省医政局

医薬産業振興・医療情報企画課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

1. 仕切価率の逆ザヤについて

仕切価率（※）に係るアンケートの実施

- 日本製薬工業協会（製薬協）又は日本ジェネリック製薬協会（JGA）に加盟している企業99社（製薬協69社、JGA30社）を対象とし、仕切価率の階層区別に仕切価率の階層区別にカテゴリー毎（A～E）の包装単位別の品目数（以下「包装単位数」という。）を過去3カ年分（令和7年度・6年度・5年度）と、その設定根拠等について回答を依頼し、対象企業99社中、自社製品を他社に委託販売している企業等を除いた92社中89社から回答がある（回答率96.7%）。

<階層区分>

①96%未満、②96%以上～98%未満、③98%以上～100%未満、④100%、⑤100%超過～110%未満、⑥110%以上～120%未満、⑦120%以上
(仕切価率(%) = 仕切価(税抜) / 薬価(税抜) × 100)

<カテゴリー>

A. 新薬創出等加算品、B. 特許品、C. 長期収載品、D. 後発医薬品、E. その他(昭和42年10月1日以前に承認された品目)

※一次仕切価であり、割戻し・AWを除いた卸への仕入原価ではない。

※※対薬価仕切価率100%以上の階層は、流通コストを価格に転嫁すると、取引相手側の流通不採算を引き起こす可能性が高い階層と考えられるため、
本資料では100%以上の階層の仕切価率を「逆ザヤ仕切価率」として整理。

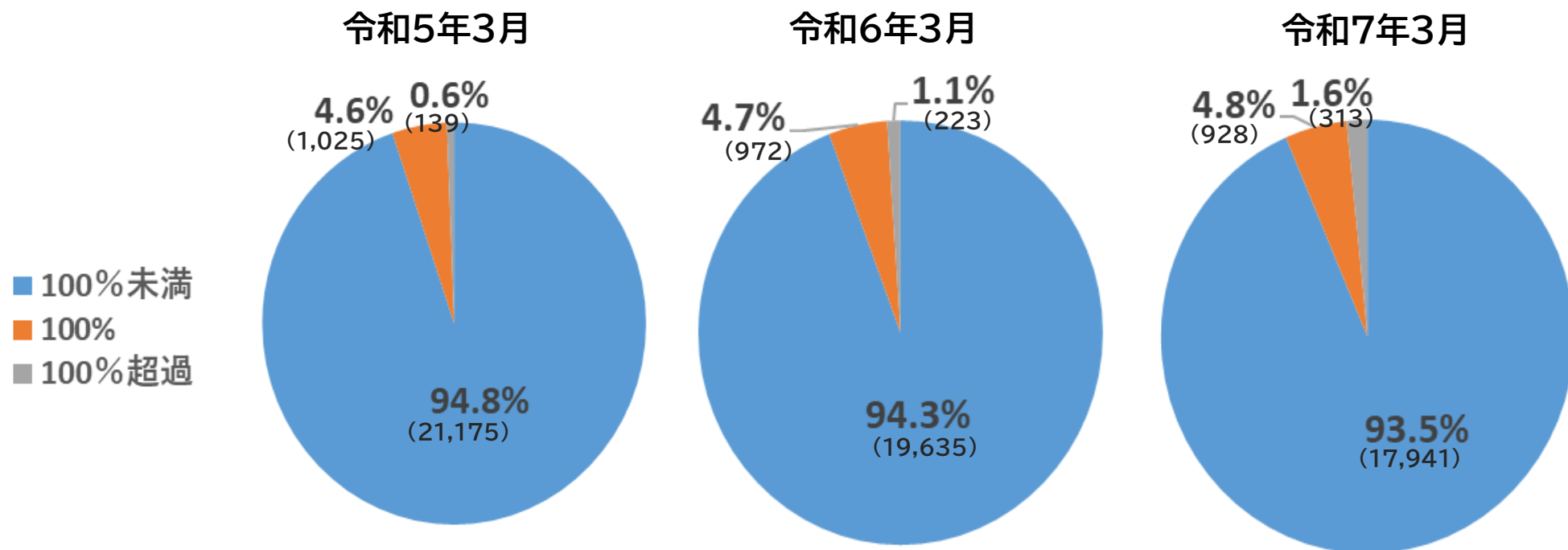
ひと、くらし、みらいのために



(1) 逆ザヤ仕切価率（薬価以上の仕切価率）が設定された包装単位の状況 （令和7年度・令和6年度・令和5年度）

○ 逆ザヤ仕切価が設定（仕切価率100%以上）された包装単位は、全包装単位数に対して、5.2%（令和5年3月）、5.8%（令和6年3月）、6.4%（令和7年3月）という割合で確認され、右肩上がりで推移していることから、上昇傾向にあることが読み取れる。

【全包装単位数に対する各階層区分（100%未満、100%と100%以上）の包装単位数の割合と推移】

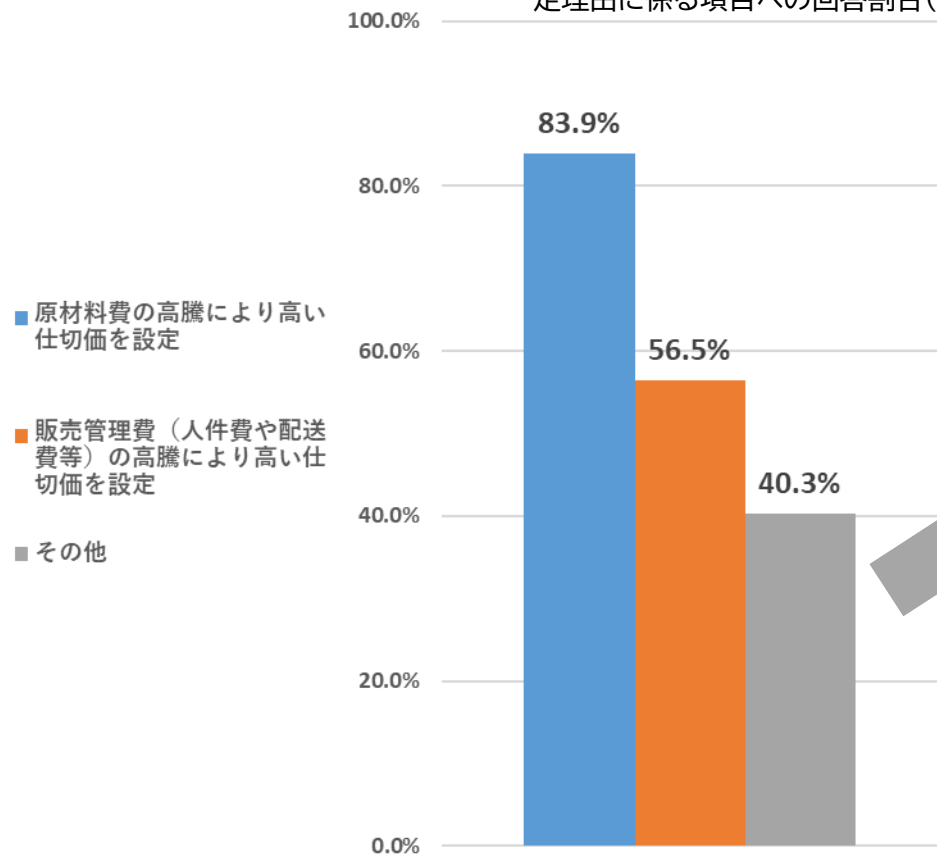


(2) 逆ザヤ仕切価率の設定理由（令和7年度）

- 逆ザヤ設定の理由として、原材料費の高騰が約8割と大部分を占めており、同じく販売管理費（人件費や配送費）の高騰についても約5割以上になっている。
- その他、物価等の高騰に関係なく、自社の安定供給の確保等に必要な費用の確保を考慮した理由もある。

<逆ザヤ仕切価率の設定理由>

※逆ザヤ仕切価率の回答数全体に対する各設定理由に係る項目への回答割合（重複回答可）



その他の主な理由

・安定供給確保の為の設備投資・原薬追加、将来の開発品などの検討費用が必要

(3) カテゴリー別の逆ザヤ仕切価率の包装単位の割合

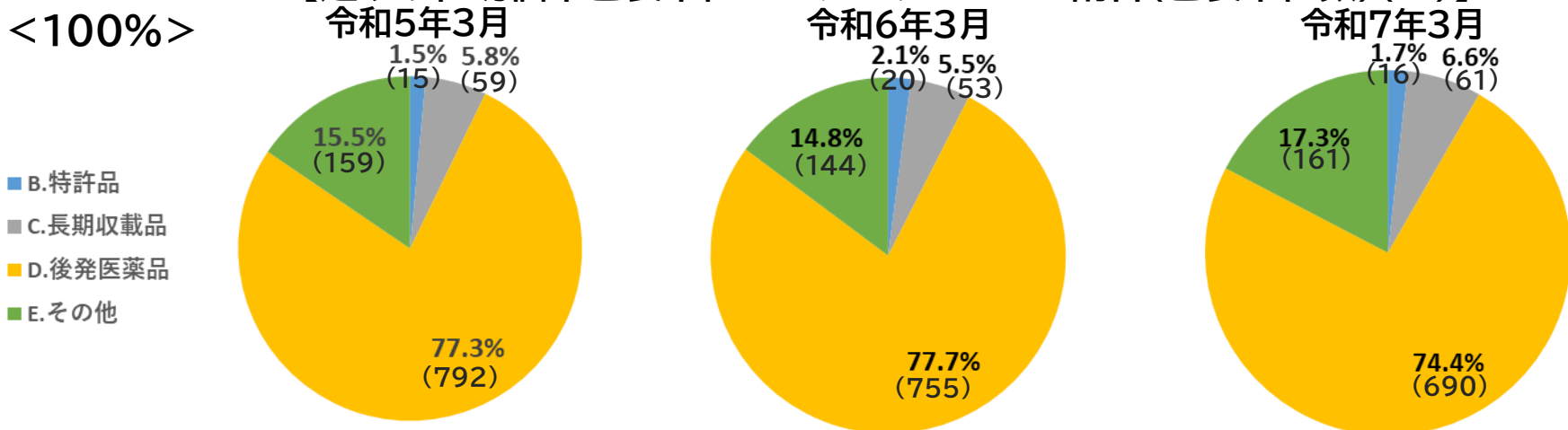
(令和7年度・令和6年度・令和5年度)

○ カテゴリー別では後発医薬品が最も多く、新薬創出等加算品は存在しないが、特許品、長期収載品は存在。年々増加傾向。

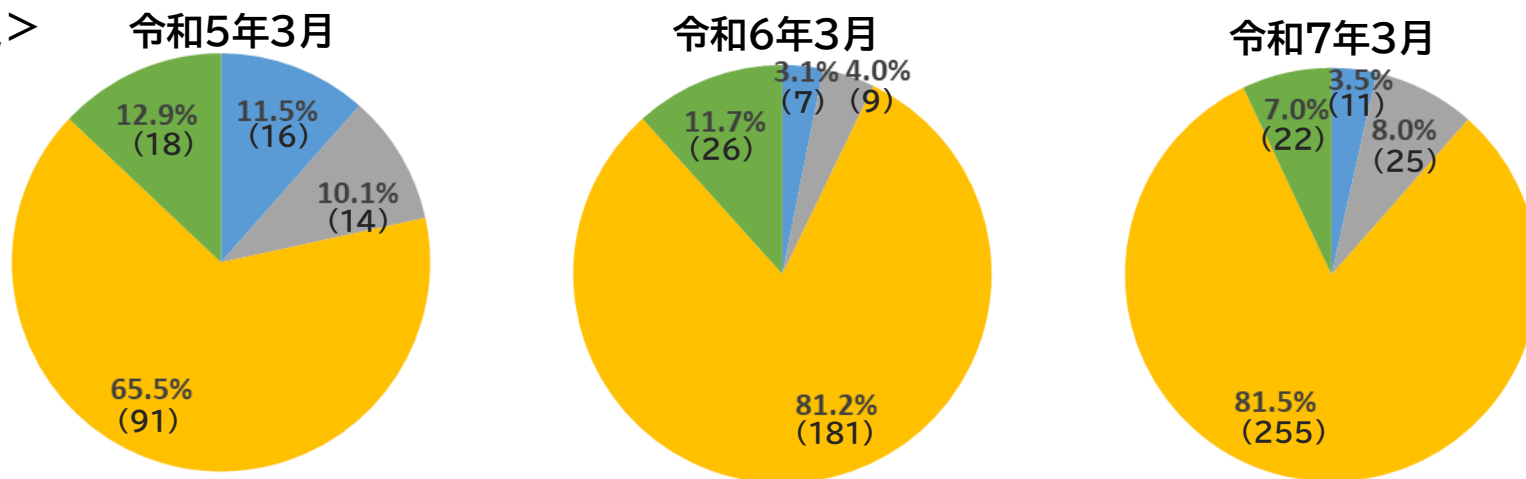
○ 逆ザヤ仕切価率の大宗は、100%の階層区分が占めており、100%超過の階層区分の割合は少ない。

【逆ザヤ仕切価率包装単位の 카테고리ごとの割合(包装単位数)(※)】

<100%>



<100%超過>



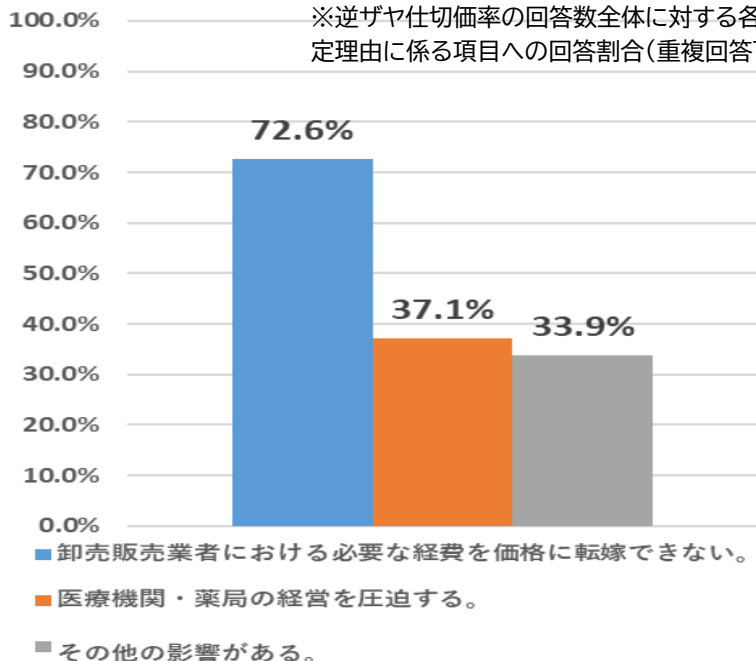
※一次仕切価率のため、仕入原価率と一致しない場合がある。

※逆ザヤ包装単位数に係るカテゴリーごとの内訳を示したものであり、各カテゴリーにおいて逆ザヤ包装単位数が占める割合を示したものではない。

(3) 逆ザヤ仕切価率に係る見解等（令和7年度）

<安定供給等への影響>

※逆ザヤ仕切価率の回答数全体に対する各設定理由に係る項目への回答割合(重複回答可)

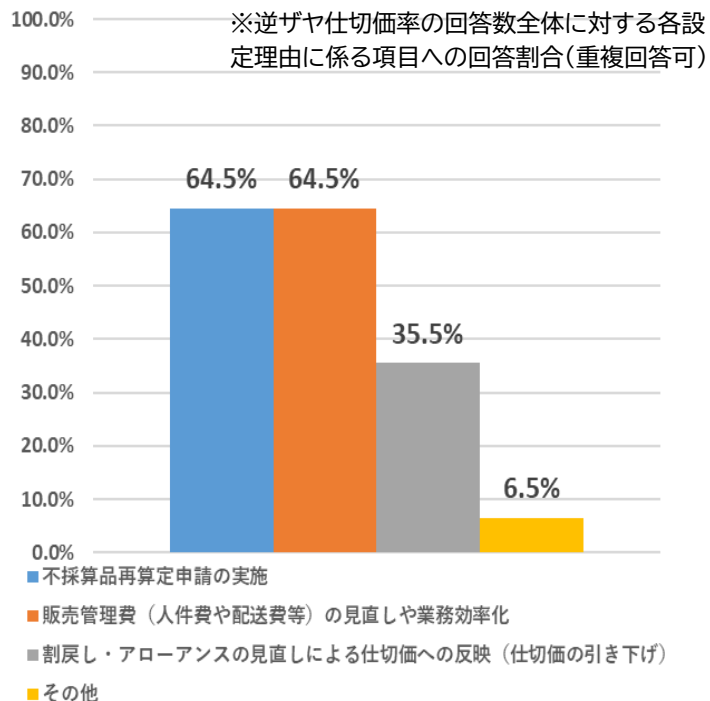


その他の主な理由

- ・卸売販売業者は自損を無くす為、薬価若しくは薬価以上で医療機関に納入価を設定される事が予測される。
- ・毎年薬価改定による利益圧迫

<今後の対応方針>

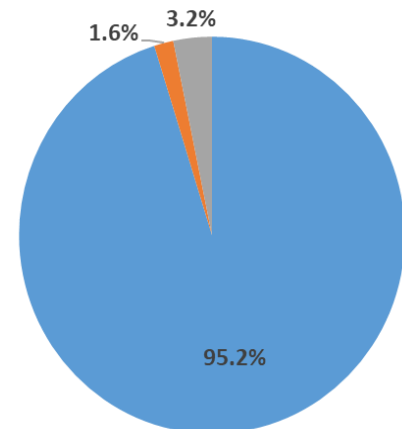
※逆ザヤ仕切価率の回答数全体に対する各設定理由に係る項目への回答割合(重複回答可)



その他の主な理由

- ・方針未決定
- ・不採算品再算定が適用された場合の薬価に応じて見直しを検討

<卸への説明状況>



■ 理由等を説明している ■ 理由等を説明していない ■ 未回答

- 卸、医療機関・薬局への影響を懸念する回答、今後の対応方針として解消への前向きな回答、卸に理由等を説明している旨の回答が大半を占めている。

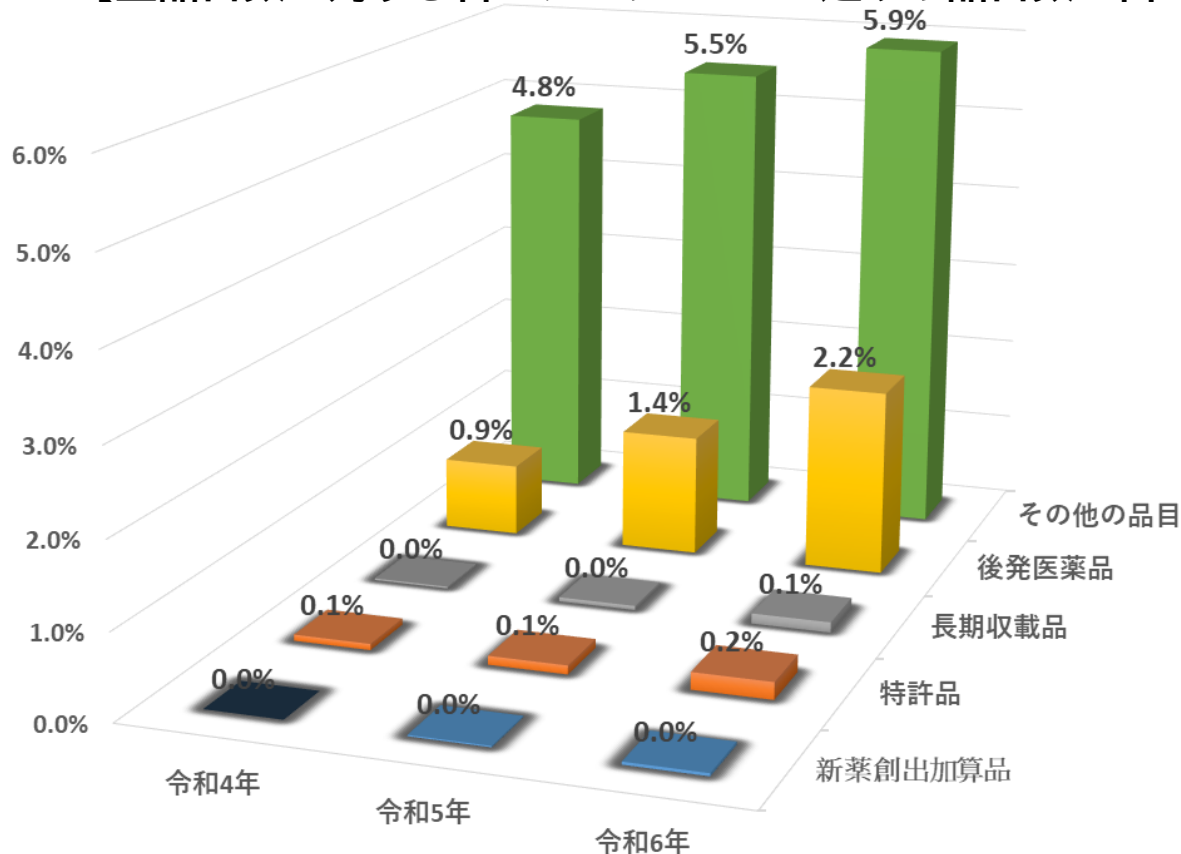
2. 納入価率の逆ザヤについて

(1) 納入価率の逆ザヤの状況

(令和6年度薬価調査・令和5年度薬価調査・令和4年度薬価調査)

- 納入価の逆ザヤ品目は、全カテゴリーにおいて、確認された。
- カテゴリー別では、その他が最も多く、次に後発医薬品が多い。新薬創出等加算品、特許品及び長期収載品も少ないながら存在。また、全カテゴリーで増加傾向。
- 「その他」の中には、生薬などが含まれており、原材料費の高騰等の影響があると考えられる。

【全品目数に対する各カテゴリーごとに逆ザヤ品目数が占める割合】



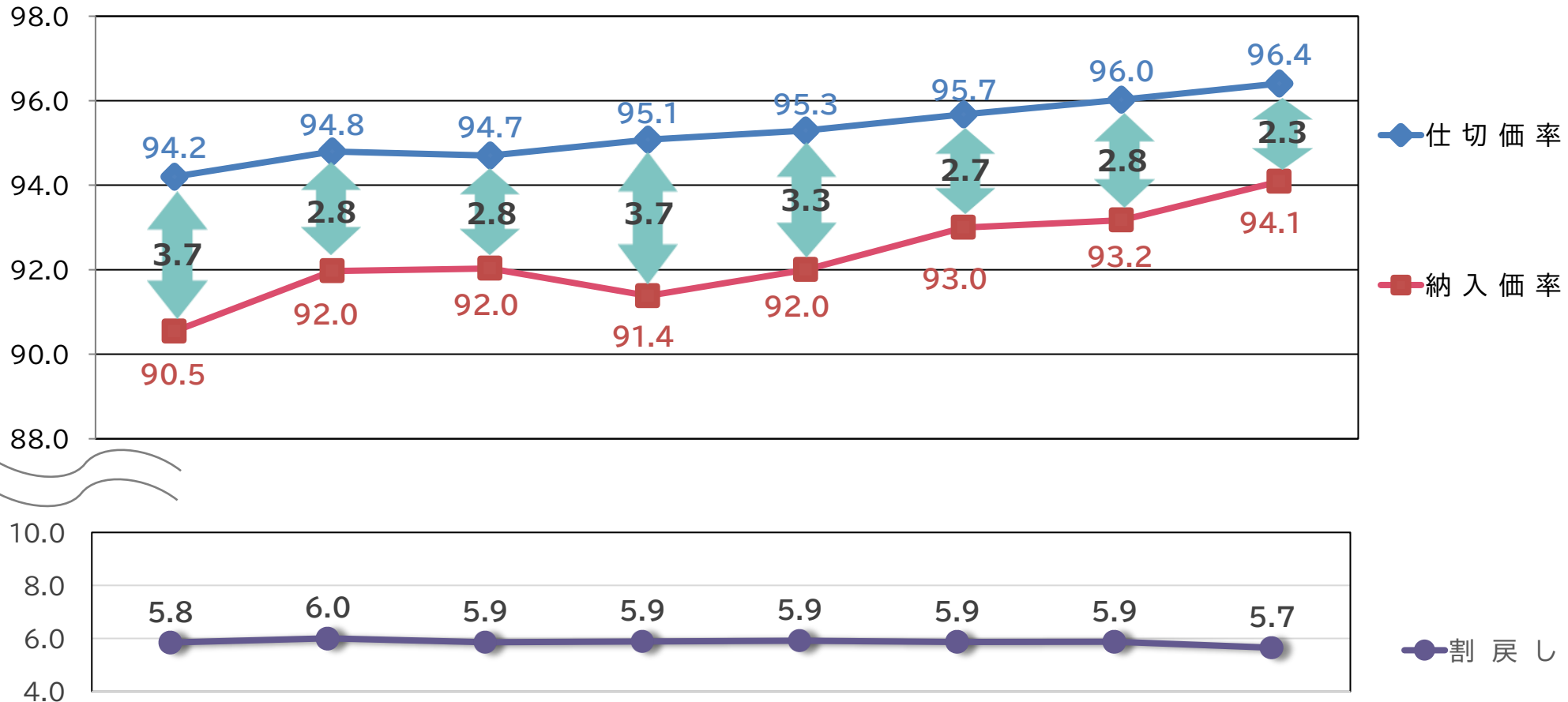
※数値は少数点第1位まで表示したものをそのまま利用しているため、少数点第2位以下の数値の影響で、軸と一致していない箇所がある。

※各年度の薬価調査で得られた、医薬品卸売業者から保険医療機関及び保険薬局に対する販売額が薬価で換算した金額を超える品目を集計

3. 参考資料

(1) 仕切価率、納入価率、割戻し率の推移

- ・仕切価率及び納入価率とも上昇傾向にある。
- ・2024年度の仕切価率と納入価率の差については、2.3%（対前年度比▲0.5%）と、2017年度以降で最小値となっている。
- ・2024年度の割戻し率については、5.7%（対前年度比▲0.2%）と、2017年度以降で最小値となっている。



2017年度 2018年度 2019年度 2020年度 2021年度 2022年度 2023年度 2024年度

* グラフの数値は、薬価を100としたときの水準（税込）（単位：%）

【データ】 5社の卸売業者ごとにそれぞれの取扱全品目の加重平均値を算出し、さらに、その5つの算出値を単純平均した値
小数点第2位を四捨五入